

# 病害虫発生予察情報 第5号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 8月の病害虫発生予報

### 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（穂いもち）	やや少ない	—	野菜	白ねぎのさび病	少ない	—
	紋枯病	少ない	—		白ねぎの黒斑病・葉枯病	並	—
	<b>ごま葉枯病</b>	<b>多い</b>	—		白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	斑点米カメムシ類				白ねぎのネギハモグリバエ	少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—		<b>白ねぎのシロイチモジヨトウ</b>	<b>やや多い</b>	—
	<b>アカスジカスミカメ</b>	<b>多い</b>	—		アブラムシ類	やや少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		ネキリムシ類	並	—
	クモヘリカメムシ	並	—		果樹	果樹のカメムシ類	少ない
	ニカメイガ（第2世代）	並	—	リンゴの褐斑病		並	—
	ツマグロヨコバイ	少ない	—	リンゴの斑点落葉病		少ない	—
	ヒメトビウンカ	並	—	<b>リンゴのナミハダニ</b>		<b>やや多い</b>	—
	セジロウンカ	並	—	<b>リンゴのリンゴハダニ</b>		<b>多い</b>	—
	トビイロウンカ	並	並	<b>ニホンナシの黒星病</b>		<b>やや多い</b>	—
	コブノメイガ	並	並	ニホンナシのナシヒメシンクイ		並	—
大豆	葉焼病	並	—	<b>ニホンナシのハダニ類</b>		<b>やや多い</b>	—
	紫斑病	並	—	<b>ブドウのべと病</b>		<b>やや多い</b>	—
	ウコンノメイガ	少ない	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ		少ない	—
	フタスジヒメハムシ	少ない	—	モモのモモハモグリガ	少ない	—	
	アブラムシ類	並	—	モモのナシヒメシンクイ	並	—	
	<b>ハスモンヨトウ</b>	<b>多い</b>	—	花き 球根	きくの黒斑病・褐斑病	少ない	—
	<b>大豆カメムシ類</b>	<b>やや多い</b>	—		アブラムシ類	やや少ない	—
	<b>ハダニ類</b>	<b>やや多い</b>	—		タバコガ類	少ない	—
			ネキリムシ類		並	—	

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974  
 参照URL : <http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

# I 水 稲

## 1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の葉いもち発病株率は0%で、平年（0.0%）並に低く、8月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照

## 2 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない  
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 7月20日調査の発病株率は0.2%で、平年（1.7%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 27～28ページ参照

## 3 ごま葉枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：多い  
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 近年の発生が多い。
- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 適切な水管理の励行等により稲体活力の維持に努める。
- ・ 防除指針 32 ページ参照

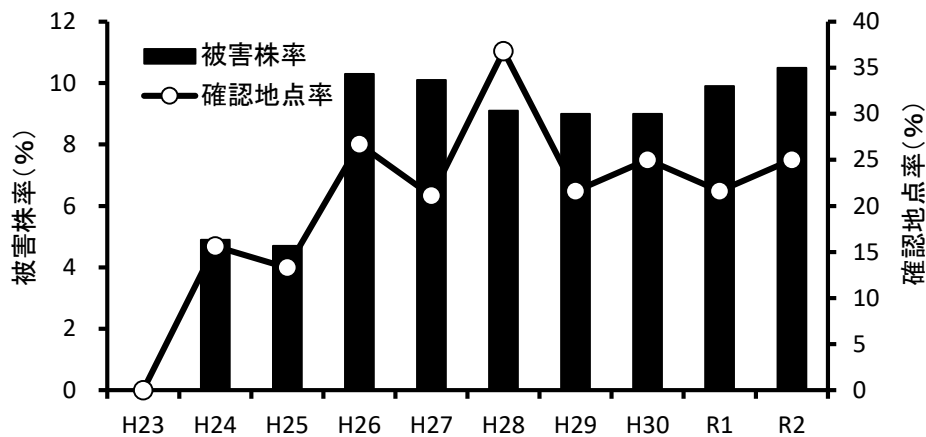


図1 ごま葉枯病の被害株率の年次推移(9月5日調査)

#### 4 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は3.2頭で平年（3.4頭）並、確認地点率も49%で平年（47%）並であった。

(3) 防除対策

- ・イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を確実に実施する。また、コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
- ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなるので防除を徹底する。
- ・散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 40～41ページ参照

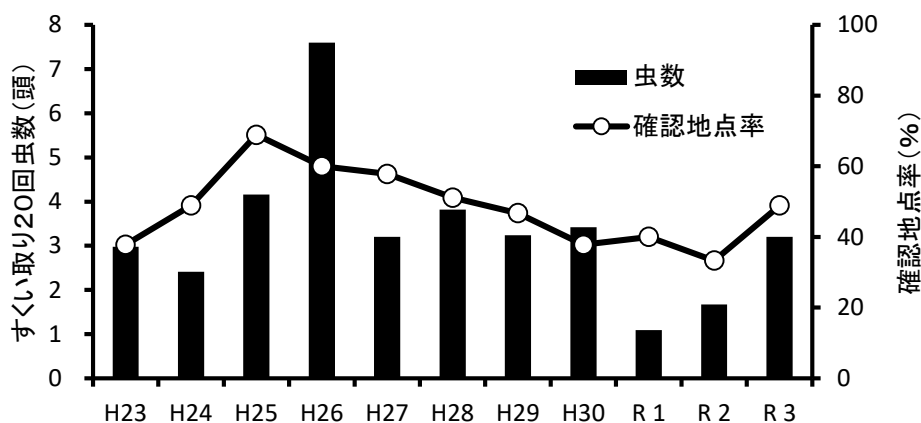


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

#### 5 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は2.4頭で、平年（1.7頭）より多く、確認地点率も38%で、平年（22%）より高かった。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～41ページ参照

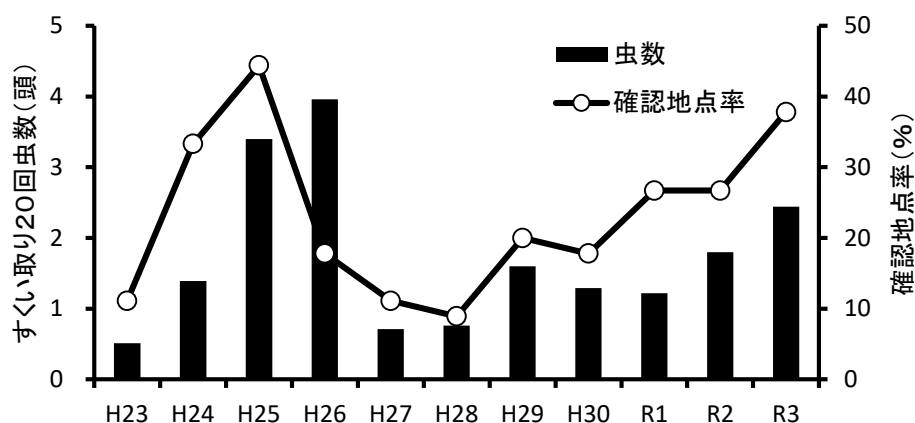


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 6 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.0頭で、平年(0.2頭)よりやや少なく、確認地点率も2%で平年(13%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 41ページ参照

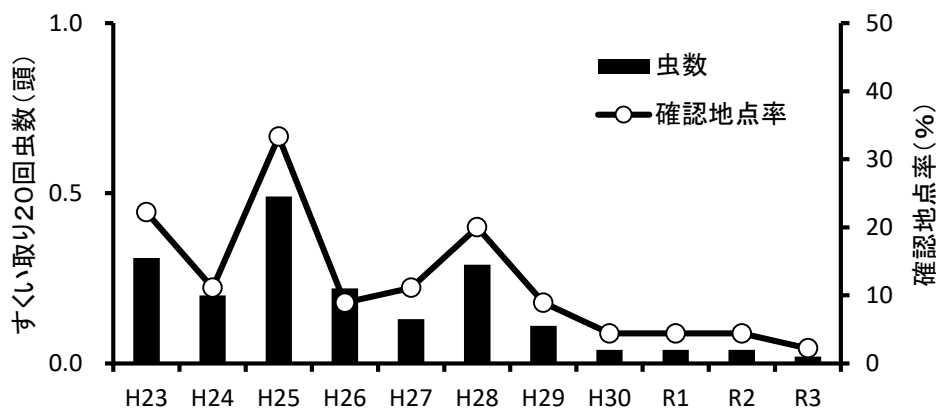


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 7 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.0頭で、平年(0.0頭)並、確認地点率も2.2%で平年(0.8%)並であった。

(3) 防除対策

- ・クモヘリカメムシは成虫及び水田内で羽化した幼虫が登熟初期から後期まで稲穂を吸汁加害する。割籾がなくても被害が生じるので、発生が多い地域では早生、中生、晩生とも穂揃期と傾穂期の2回防除を行う。

- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は追加防除を実施する。
- ・ 防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ残効性の高い薬剤が有効である。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

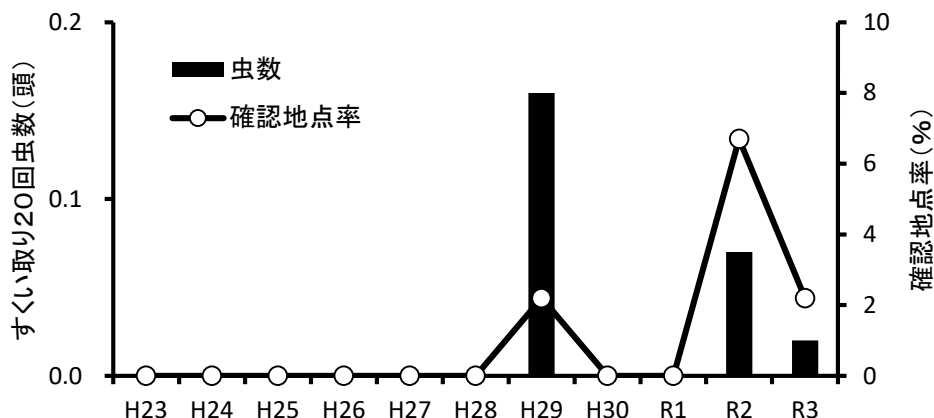


図5 クモヘリカメムシの畦畔・雑草地生息状況年次推移(7月20日調査)

## 8 ニカメイガ (第2世代)

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月20日調査の被害株率は0.8%で、平年(0.9%)並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 35～36ページ参照

## 9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 7月20日調査のすくい取り虫数は0.1頭で、平年(1.0頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 37ページ参照

## 10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は2.5頭で、平年(2.8頭)並であった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 38～39ページ参照

## 11 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月20日調査の本田すくい取り虫数は本年0.7頭で、平年(1.0頭)並であった。

- (3) 防除対策  
・防除指針 38～39ページ参照

## 12 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
・現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月9日）。
- (3) 防除対策  
・防除指針 38～39ページ参照

## 13 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠  
・現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月1日）。
- (3) 防除対策  
・晩植田で多発することが多いので注意する。  
・防除指針 39ページ参照

# II 大豆

## 1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠  
・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策  
・防除指針 53ページ参照

## 2 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠  
・8月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策  
・2回の基本防除（8月2～3半旬と4～5半旬）を徹底する。  
・防除指針 52ページ参照

## 3 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠  
【少発要因】  
・7月25日調査の被害株率は4.5%で、平年（13.2%）より低かった。

### (3) 防除対策

- ・播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・7月6半旬に幼虫による葉巻の発生量を確認し、防除が必要であれば、8月上旬まで（若・中齢幼虫期）に遅れず実施する。
- ・防除指針 53 ページ参照

## 4 フタスジヒメハムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・7月25日調査の払落虫数（1条1.8m間）は0頭で、平年（0.06頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・払落調査を行い、ほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
- ・防除指針 55 ページ参照

## 5 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月25日調査の寄生株率は0.4%で、平年（0.4%）並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 54 ページ参照

## 6 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数は184.9頭で、平年（92.0頭）より多かった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

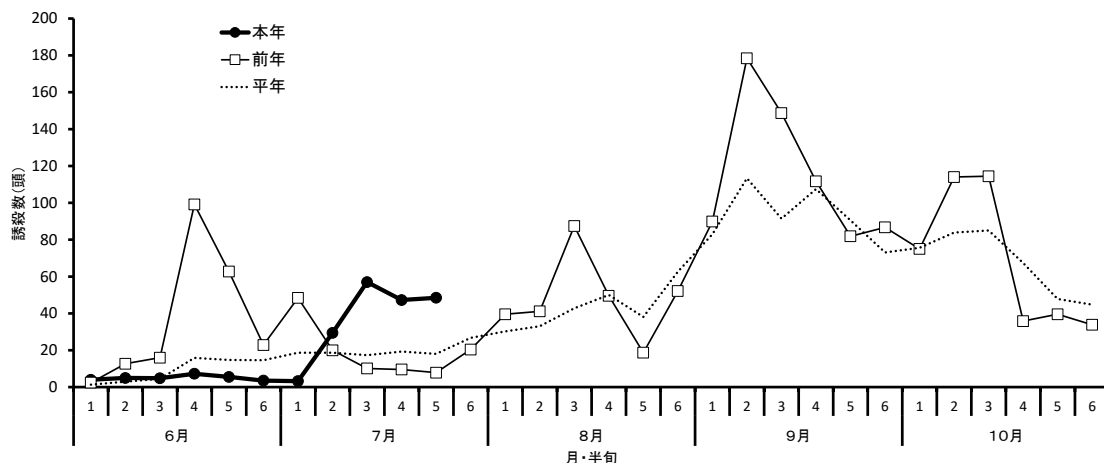


図6 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

## 7 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・前年の発生量がやや多かった。

(3) 防除対策

・成虫侵入期の8月中旬頃（莢伸長期）と成虫侵入盛期から2週間後の8月下旬（子実肥大期）の防除を徹底する。

・多発が懸念されるほ場では発生状況に応じて追加防除を行う。

・防除指針 54 ページ参照

## 8 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・8月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。

・防除指針 53 ページ参照

## Ⅲ 野菜

### 1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・7月25日調査の発病株率は0.8%で、平年（15.8%）より低かった。

(3) 防除対策

・防除指針 97 ページ参照

### 2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・7月25日調査の発病株率は8.8%で、平年（9.9%）並であった。

(3) 防除対策

・無理な土寄せを避け、他の病虫害防除を徹底するなど、葉先枯れの防止に努める。

・防除指針 98 ページ参照



### 3 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月 25日調査の被害株率は23.2%で、平年(49.5%)より低かったが、8月の気温は平年並か高いと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 99～100 ページ参照

### 4 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 7月 25日調査の被害株率は5.6%で、平年(18.5%)より低かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 99 ページ参照

### 5 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数は53.6頭で、平年(39.0頭)よりやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 100 ページ参照

### 6 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は181.0頭で平年(281.4頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 66～135ページのアブラムシ類の項参照

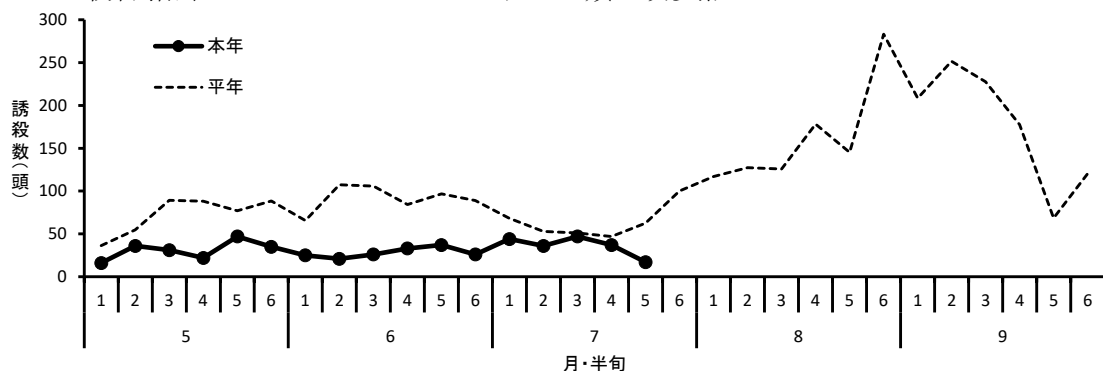


図7 アブラムシ類の黄色水盤トラップ誘殺数推移

## 7 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数はタマナヤガが38.3頭で  
 平年(34.0頭)並、カブラヤガも83.6頭で、平年(95.5頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 68～132ページのネキリムシ類の項参照

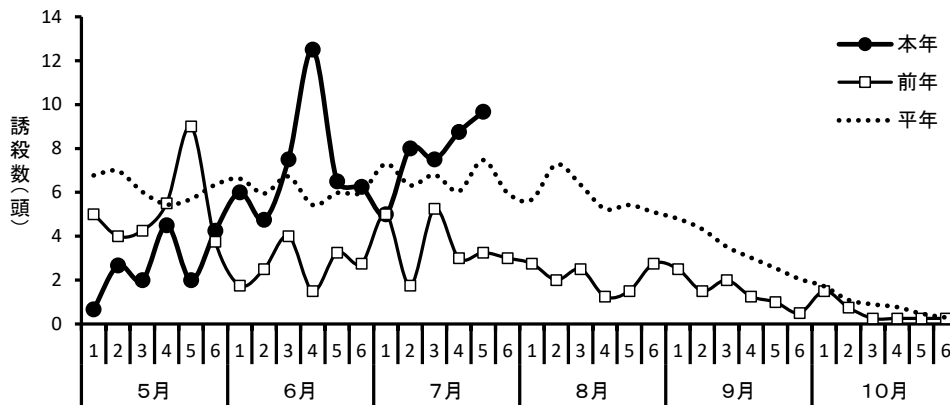


図8 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

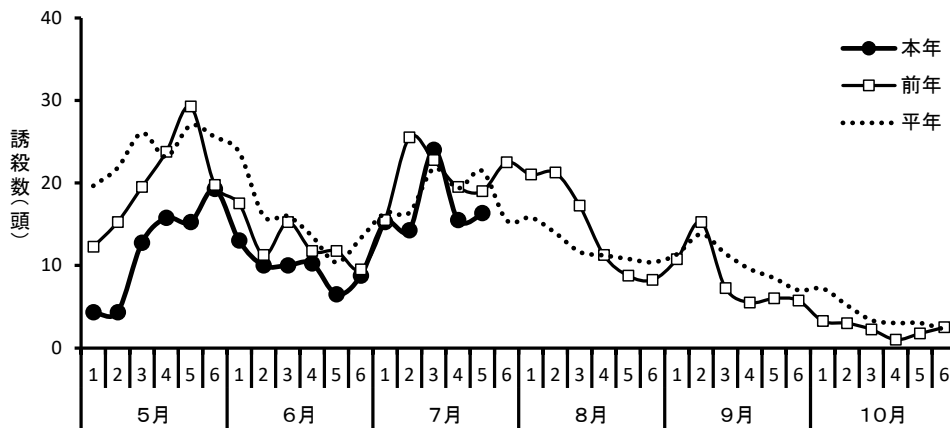


図9 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

## IV 果 樹

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、2.6頭で平年（14.4頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。  
なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：リンゴ140, 144～145, 147～148ページ、ニホンナシ155, 158～159ページ、カキ169～170ページ、モモ172～173, 175ページ参照

### 2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在までの発生量は平年並であった。
- ・8月の降水量もほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・褐斑病の兆候が見られる園地では、トップジンM水和剤（1,500倍）を散布する。
- ・前年の発生が多かった園地や、すでに発生が確認されている園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・防除指針：140～142, 146～147ページ参照

### 3 リンゴの斑点落葉病

(1) 予報内容 発 生 量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・前年の発生量は平年より少なかった。

(3) 防除対策

- ・高温多雨で発生が急増しやすいので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように降雨前散布に努める。
- ・防除指針：140～142, 146～147ページ参照

### 4 リンゴのナミハダニ

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

#### (3) 防除対策

- ・ 薬剤の散布前には新梢管理を行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・ 殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ 高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：143, 145～146ページ参照

### 5 リンゴのリンゴハダニ

#### (1) 予報内容 発生量：多い

#### (2) 予報の根拠

##### 【多発要因】

- ・ 一部産地では現在までの発生量は多かった。
- ・ 8月の気温は平年並か高いと予想されている。

#### (3) 防除対策

- ・ 薬剤の散布前には新梢管理を行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・ 殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ 高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：143, 145～146ページ参照

### 6 ニホンナシの黒星病

#### (1) 予報内容 発生量：やや多い

#### (2) 予報の根拠

##### 【多発要因】

- ・ 県内主要産地における現在までの発生量はやや多い。

#### (3) 防除対策

- ・ り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、処分する。
- ・ 発生が多い場合は、幸水の収穫前及び収穫後にオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで）を散布する。
- ・ 収穫期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・ 防除指針：151～154, 157ページ参照

### 7 ニホンナシのナシヒメシンクイ

#### (1) 予報内容 発生量：並

#### (2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は、3.0頭で平年（3.3頭）並だった。

#### (3) 防除対策

- ・ 被害果は見つけ次第、園外に持ち出して処分する。
- ・ 発生の多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍）を散布する。
- ・ 収穫期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する

・防除指針：151, 154～155, 158～159ページ参照

## 8 ニホンナシのハダニ類（ナミハダニ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・8月の気温は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：156, 158～159ページ参照

## 9 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・現在までの発生量はやや多い。

(3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、処分する。
- ・収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・発生が確認される園地では、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤を散布する。ただし、夏場高温時にICボルドー48Q及びサンケイ園芸ボルドーを散布すると、薬害が発生するおそれがあるので注意する。
- ・防除指針：161～164ページ参照

## 10 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は、37.0頭で平年（131.3頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、コルト顆粒水和剤（2,000～3,000倍）を散布する。
- ・防除指針：167, 169～170ページ参照

## 11 モモのモモハモグリガ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬までの誘殺数は、9.0頭で平年（71.9頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・収穫終了後に防除を実施する。
- ・防除指針：172～175ページ参照

## 1 2 モモのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる6月4半旬～7月3半旬の誘殺数は、3.0頭で平年(3.3頭)並だった。
- (3) 防除対策
  - ・収穫中に発生(新梢の心折れ)が見られる園地では、サムコルフロアブル10(5,000倍)又はディアナWDG(5,000～10,000倍、収穫前日まで)を散布する。なお、散布に際しては農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
  - ・収穫終了後に防除を実施する。
  - ・防除指針：172～175ページ参照

## V 花き・球根

### 1 きくの黒斑病・褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・7月25日調査の被害株率は1.3%で、平年(3.9%)より低かった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 192～193ページ参照

### 2 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・アブラムシ類有翅虫の7月1半旬～5半旬の黄色水盤への誘殺数は181.0頭で、平年(281.4頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 190～212ページのアブラムシ類の項参照

### 3 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・フェロモントラップによる6月6半旬～7月5半旬の誘殺数はタバコガが2.7頭で平年(21.7頭)より少なく、オオタバコガも5.0頭で平年(26.2頭)より少なかった。
- (3) 防除対策

・防除指針 198～207 ページのタバコガ、オオタバコガの項参照

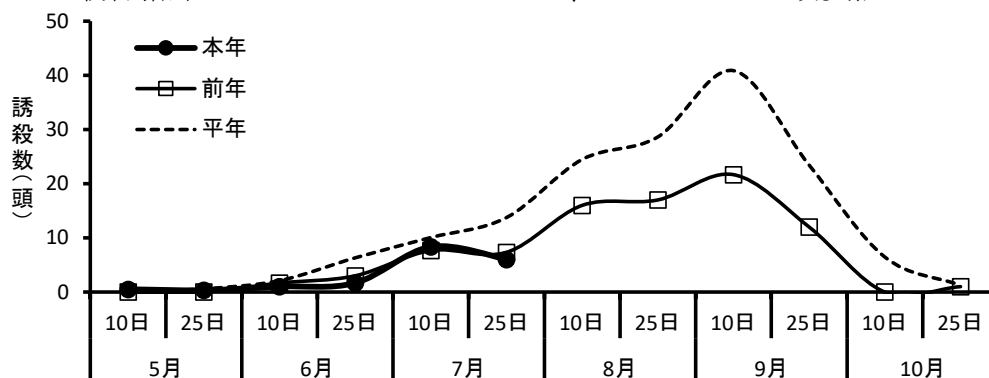


図10 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

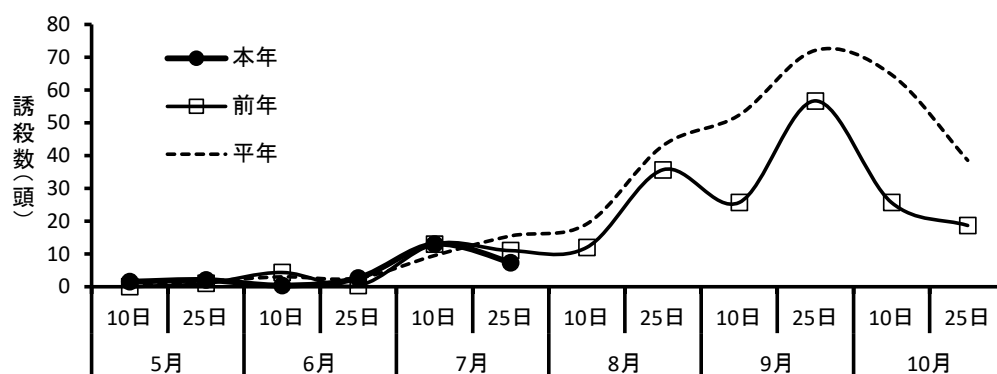


図11 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

#### 4 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる7月1半旬～5半旬の誘殺数はタマナヤガが38.3頭で平年(34.0頭)並、カブラヤガも83.6頭で、平年(95.5頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・防除指針 198 ページのネキリムシ類の項参照

#### ○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

#### ○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組みが必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報  
 (予報期間 8月から10月)

7月21日  
 新潟地方気象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。  
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	08月~10月	20 30 50
		08月	20 40 40
		09月	20 40 40
		10月	20 40 40
降水量	北陸地方	08月~10月	30 40 30
		08月	30 40 30
		09月	30 40 30
		10月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)